

● 里山倶楽部活動スタート

「アジサイ・菖蒲祭り」

6月16日(土)、新設の里山倶楽部(会長は光陽の里・楽農会溝口博之さん)の最初の企画「アジサイ・菖蒲祭り」が開催され、梅雨空のもとながら「倉馬の里」に子供5名をふくむ21名が参加、「倉馬の里」に自生する草花の名苑クイズのあとバーベキューを楽しんだ。現会員数は26名、今後の活動計画および申し込み先は左のとおり。大勢の皆さんの参加が期待されている。

- * 8月5日(日)「夏野菜を楽しむ会」光陽の里と共催。午後6時、ふれあい小屋付近へ集合、持ち寄りの野菜とバーベキュー、そうめん(そばになるかも…)で親睦をはかるもの。会費は1家族五百円
- * 9月23日(日)倉真ウオーキング
- * 10月28日(日)収穫祭(光陽の里と共催)
- * 11月23日(金)きのこ汁を味わう会「倉馬の里」
- * 12月15日(土)芋煮会(忘年会)

「倉馬の里」
行事参加、問合わせは溝口博之・松

井道夫・池田百合子・藤本将まで。

● 炎天下の「草刈」すすむ

除草剤を使わぬ花の村では夏場の草刈と縁が切れない。今年も世話人の呼びかけで炎天下あちこちの畑の周辺で草刈が行われた。7月盛夏、光陽の里では8時集合で、倉馬の里では雨模様の中での草刈となった。カンナ園の草刈では、里山倶楽部から杉山卓久さんが参加、また翌日は柴さんのご家族、翌々日には里山倶楽部の笹本さんが参加、お陰さまで棚田部分の草刈も終えることが出来たと喜ばれている。



雨中、花に気をつけながら丁寧に草を刈る杉山さんと松井さん(後方)

● 光陽の里のイノシシ対策

光陽の里では猪の被害がメイン道路の北側に広がっている。猪はふれ

あい農園あたりまで進出、サツマイモは絶望的な状況。7月の役員会で南に進出した時点で畷を手配しようとの話になっていた。他に鉄線の柵が有効らしい。電気を通すまでもないらしい。(松井記)

(倉馬の経験を聞きました)

里山の「倉馬の里」は光陽の里に比べイノシシの害はさらにひどく、野菜畑の周囲にフェンスをめぐらしましたが、ワイヤーメッシュのフェンスでは弱く、一部はコンテナで補強しております。

またワイヤーメッシュのフェンスの周囲には唐辛子を焼酎につけた溶液を散布しています。唐辛子の成分であるカプサイシンをイノシシが嫌うためです。効果のほどはこれからです。(藤本さん談)

● 他団体との交流

● 苗一万五千本の植樹活動

6月2日(土)「緑の防波堤」づくりに植樹スタッフとして参加。

掛川市倉真地区で荒廃森林の再生運動を進めているNPO法人時ノ寿の森クラブ(代表者松浦成夫氏)

が横浜国大名誉教授宮脇昭氏の指導をえて、津波対策として「森の防波堤づくり」植樹祭が行われた。掛川市大浜地区の砂丘地五千平米に地元住民を主体とした千四百人が広葉樹の苗一万五千本を植えた。従来海岸には松が植えられることが多かったが今回の試みは深く根を張るタブ・カシ・シイなどの広葉樹20種類を植え、地震・津波に備えようとするもの。

花の村からは松井と藤本が植樹スタッフとして参加しました。掛川市からも市長が駆けつけ子供たちと植樹をし、積極的にこの事業を応援している。(藤本記)

● 「八月十五日を考える会」案内

昨年、小田原で活躍する同会からの呼びかけに答え、柴さん伊藤さんと藤本の3人で出席しました。会は女性を中心の反戦運動を進めている志の高い市民グループです。反戦平和・脱原発のため参加しませんか。

日時 8月15日(水)午後一時半
場所 小田原市

ギャラリ「しんくろー」